

# むつ市湯野川温泉濃々園リボーン化基本構想

---

むつ市

2022年10月

# コロナ禍で加速するニューノーマル

コロナ前

集客集合型

実 空 間

時差分散型

コロナ後

モノ  
カネ  
効率  
独占

訪問者中心

顧 客

会員中心

こころ  
共感  
参加  
共有

集客数

規 模

滞在滞留時間

接触主体

業 態

非接触主体

目的充足型

顧 客 欲 求

交流感動型

企業中心

主 体 者

共同体中心

利己的競争世界      社 会      利他的共創世界

# これまでの当たり前が通用しなくなる時代



**SDGsの達成目標まであと8年。2030年の成熟経済期の社会に対し、Well-Being(幸福度)を高めるための具体策が重要になる。**

# 令和観光のモデルを踏まえた計画づくりと取り組み

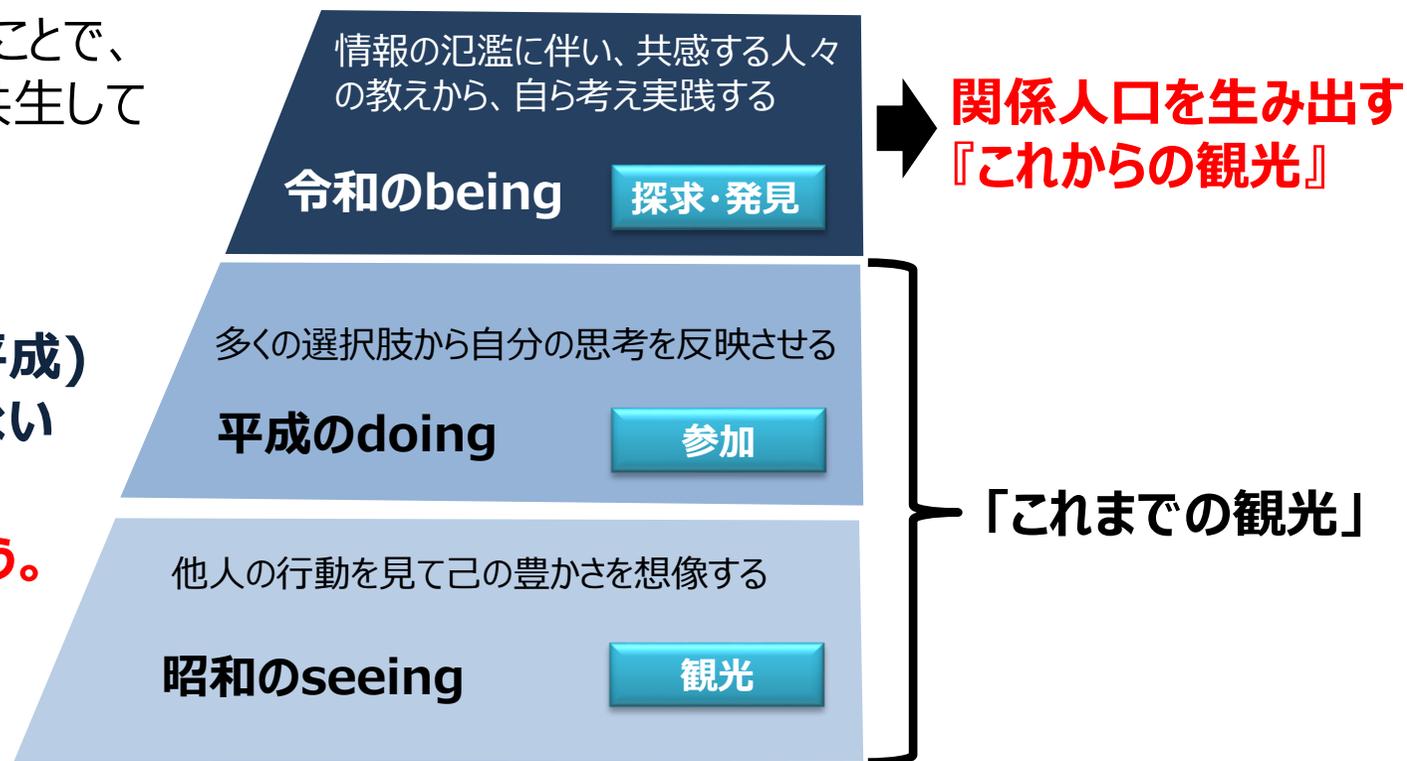
変遷する旅のスタイルは、Well-Beingを高める探求・発見にシフトしている。

Beingをコト化し、経済性からWell-Beingへとシフトすることで、ひとが幸せを感じ、自然と共生していく方法を提案していく。

旧来の交流人口(昭和平成)  
観光モデルを追いかけない



令和の観光モデルを追う。



## 濃々園の改修計画及び休館の経緯

- ・ふれあい温泉川内と濃々園はともに老朽化が進んでおり、長寿命化を目的とした改修が可能と判断した濃々園についてR2年度に維持管理保全調査を行った。
- ・調査の結果、浴室周りの部材の腐朽や蟻害が見られるなど、主要構造部の劣化が進んでいることが判明した。
- ・濃々園に関して、建替を含めた総合的な対策が必要と判断されたため、令和2年7月21日から施設を休止している。

ふれあい温泉川内



1972年開設

湯ノ川温泉濃々園



1979年開設

## 令和3年度「ワーケーショントライアル」を実施



### 生まれた2つの効果

#### 地域プレイヤーの意識改革

- ・観光地域作りの一員という気づき
- ・継続した取り組みの必要性を認識

#### 地域課題の認識共有

- ・地元民が誇れるものが必要
- ・観光の拠点となるものが必要

#### 活用と運営



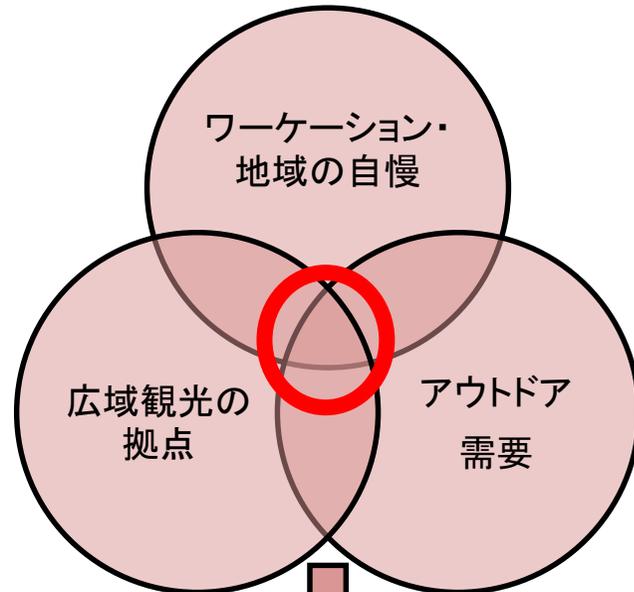
・2022.06.10  
地域団体が設立  
(Rebornかわうち実行委員会)



・休館中の湯野川温泉  
「濃々園」を拠点として  
整備する計画

## 濃々園に求められる2つの機能

### ① 新たなニーズへの訴求・集客機能



デジタル化やアウトドア需要に対応し、地域が誇り、活用できる

### ② 既存施設の機能維持



ふれあい温泉川内

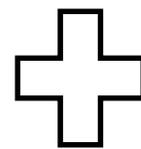


湯川温泉濃々園

公共施設として求められる役割

これまでの濃々園・ふれあい温泉の機能維持した新温泉施設（適切な規模で）

地元住人が求める  
公衆浴場機能を満たす



# ◆『総合経営計画の「下北広域周遊観光促進」のための観光拠点施設』としての位置づけ …だけでなく

## 従来の観光スタイル

- ・最大限のおもてなし
- ・地域のスペシャルな部分だけを見せる
- ・お洒落な宿泊施設や豪華な食事を提供



「非日常」体験を提供

「一度行ったら十分。リピートしない」

## 今後の観光スタイル

- ・地域のありのままを見せる
- ・現状や課題、問題なども共有
- ・訪れた人が地域ともに考え、行動する



「異日常」体験を提供

「何度でも行きたい！自分も地域の一員」

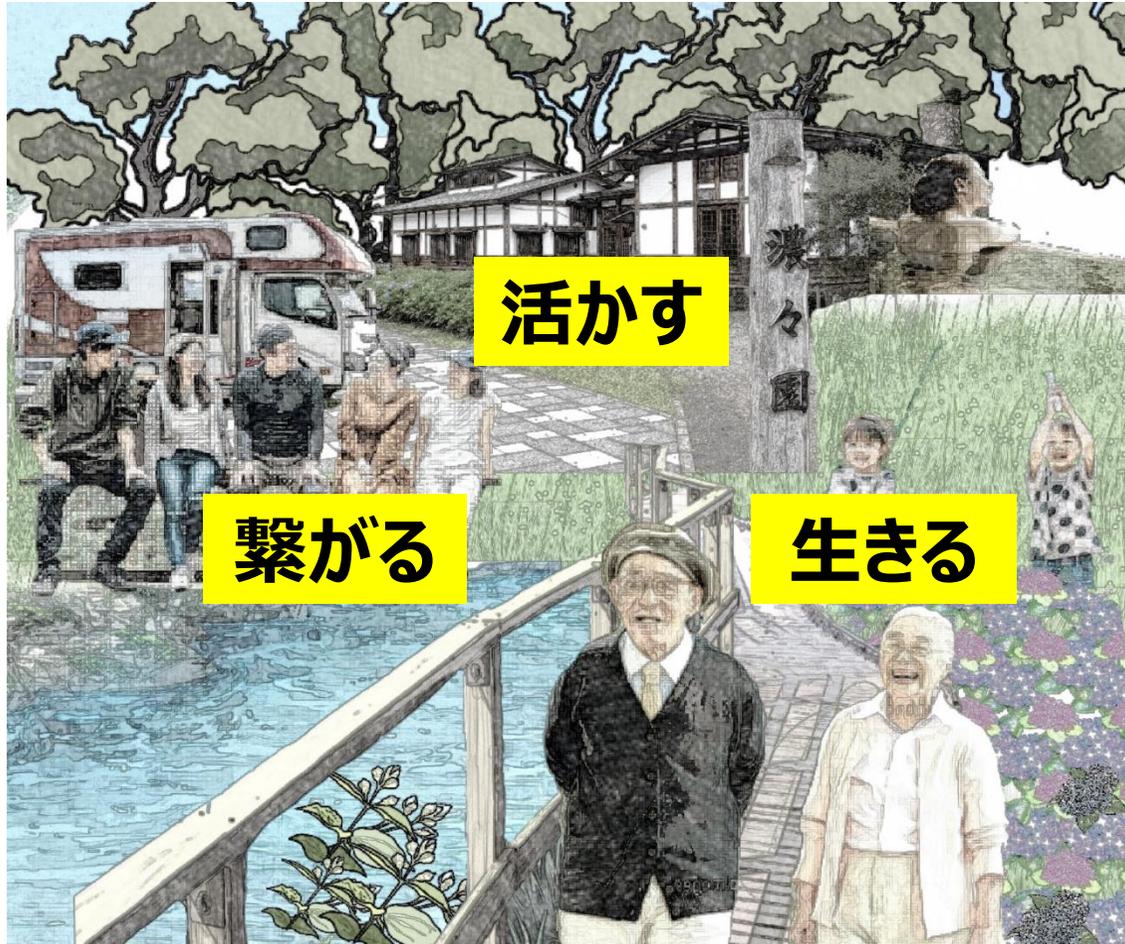
✓交流人口

✓訪れる人の関わりしろ

✓地域における新たなチャレンジ



雇用、メンテなどの経済効果はもちろん、  
訪れる人や地域住民のwell-being向上



活かす

繋がる

生きる

**生きる** = 日常に溶け込む

- ・ここに住み、生きる人々が誇りに思う
- ・日常の一部として、身近な存在である

**活かす** = 新たなニーズへ訴求

- ・魅力ある新機能によって、時代を捉えた活用方法を叶えられる
- ・交流人口や関係人口を構築し、地域課題に対して好循環を生み出す

**繋がる** = タテとヨコの繋がり

- ・多様な人々が訪れ、繋がる場となる
- ・長きにわたり愛され、次の時代へと繋げる

# イメージと将来的な活用(画像は参考)

デジタル化やアウトドア需要に対応し、地域が誇り・活用できる



地元住人が求める公衆浴場機能を満たす



※イメージ写真※



※イメージ写真※

Wi-fi環境完備のワークスペース&休憩所



※イメージ写真※

広い内湯と洗い場



※イメージ写真※

ドライブ観光に適したRVパーク



※イメージ写真※

24時間利用可能なトイレ



※イメージ写真※

快適な脱衣所



※イメージ写真※

24時間利用可能な風呂



※イメージ写真※

自慢の露天風呂

地域の企業や団体が活用

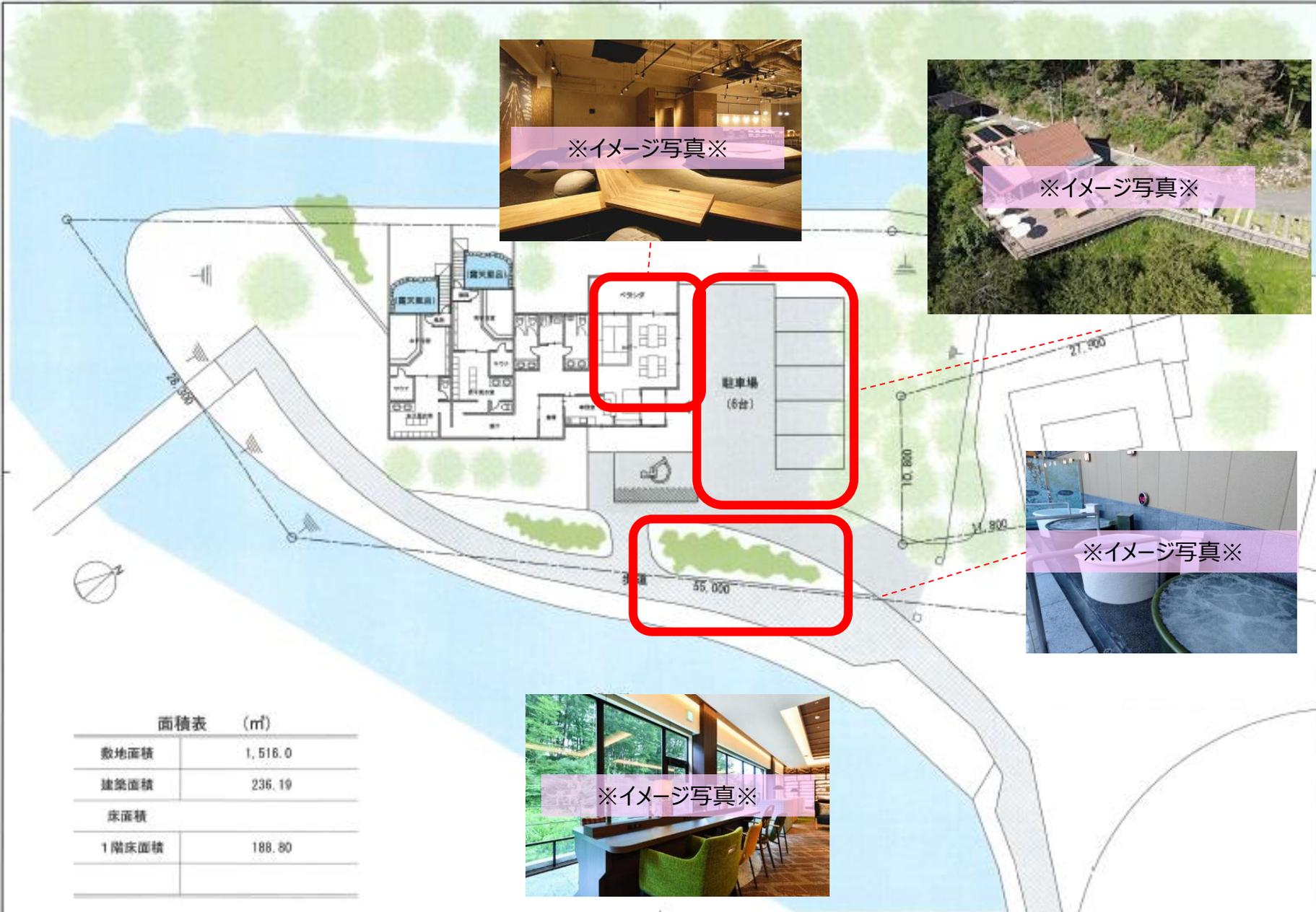


関係人口や交流人口の増加に資する



※イメージ写真※

ソフト事業でサウナ等



面積表 (㎡)	
敷地面積	1,518.0
建築面積	236.19
床面積	
1階床面積	188.80

## ターゲットと求める機能

ターゲット①：川内地区の日帰り入浴客(公衆浴場的利用)

ターゲット②：下北地区のちよいと遠出日帰り入浴客(週1の温泉利用)

ターゲット③：ツーリング客＋キャンパー（自動車、バイク、自転車等）

ターゲット④：テレワーク・ワーケーション等

①機能の再編成（濃々園＋ふれあい温泉＝新温泉施設）

濃々園（露天風呂、内湯、洗い場ともに狭い）

②機能的には、露天風呂（②③④の満足度）、内湯及び洗い場（①の満足度）は必須

③サウナは、水風呂及び整いスペースがセット出来なければ、必要なし。優先度は低い

④構造体は、木造としたい

⑤有数の降雪地であり、降雪に配慮（屋根雪、除排雪）

⑥子供連れの家族が入浴後ゆっくりするイメージの空間があれば良い（待ち合わせスペース）

⑦動画を撮りながら旅行する人が、ここで編集できるくらいのスペースと機能があれば良い

・コワーキングスペースの確保

・ワーケーション対応

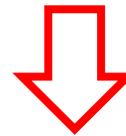
⑧駐車場は、車中泊可能なRVパーク機能を有するエリアがあれば良い（EV充電設備とか・・・）

⑨車中泊可能なRVパーク機能有なら、監視カメラは複数あった方が良い

地域の企業や  
団体が管理



新しいニーズへの  
対応拠点として活用



**より多くの人を巻き込み、  
より多くの人に活用され、  
持続可能で弾性を持ち合わせた  
管理・運営を目指す**